

分野	専門基礎分野		単位数	1	時間数	15
授業科目	保健医療論		学年時期	2年 後期		
担当講師 (実務経験)	非常勤講師(病院長)					
科目目標	看護実践に必要な医学・保健・医療の目的・しくみ・問題点及び医療の動向を理解し考えることができる。					
回数	時間	授業内容			授業方法	担当講師
1	2	医学・医療の歴史的変遷			講義	非常勤講師
2	2	医療の歩みと医療観の変遷			講義	非常勤講師
3	2	生活と健康 健康・不健康			講義	非常勤講師
4	2	科学技術の進歩と現代医療の最前線			講義	非常勤講師
5	2	現代医療の課題 医療倫理			講義	非常勤講師
6	2	医療を見つめ直す新しい視点			講義	非常勤講師
7	2	保健・医療・福祉システム			講義	非常勤講師
8	1	終了試験			試験	非常勤講師
評価方法	終了試験の成績(100点満点)で評価する					
評価基準	60点以上で合格 60点未満の場合は再試験(1回のみ)					
テキスト	系統看護学講座 別巻 総合医療論 医学書院					
参考文献						
備考						

分野	専門基礎分野	単位数	1	時間数	15
授業科目	病理学総論	学年時期	1年次 後期		
担当講師 (実務経験)	非常勤講師（病理科医師）				
科目目標	疾病の成り立ちを生体の変化と関連づけて理解する。				
回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師	
1	2	病理学とは 先天異常と遺伝性疾患	講義	非常勤講師	
2	2	循環障害について	講義	非常勤講師	
3	2	細胞・組織の損傷と修復、炎症	講義	非常勤講師	
4	2	代謝障害(脂質・タンパク質・糖質など)	講義	非常勤講師	
5	2	免疫、移植と再生医療・感染症	講義	非常勤講師	
6	2	老化と死	講義	非常勤講師	
7	2	腫瘍(分類・診断・治療)	講義	非常勤講師	
8	1	終了試験	試験		
評価方法	筆記試験・出席状況・授業への参加態度・課題の提出で総合的に評価する				
評価基準	60点以上で合格 60点未満の場合は再試験(1回のみ)				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復促進① 病理学 医学書院				
参考文献					
備考					

分野	専門基礎分野		単位数	1	時間数	30
授業科目	人体の構造・機能障害と回復過程Ⅰ		学年時期	1年 後期		
担当講師 (実務経験)	1非常勤講師(呼吸器科医師・呼吸器外科医師)					
	2非常勤講師(循環器科医師)					
	3非常勤講師(心臓血管外科医師)					
科目目標	生命現象・生命活動の障害(呼吸器疾患・循環器疾患)について、病理学総論で学んだ知識を活用し、疾患・生涯の発症の機序と各疾患の症状・診断・検査・治療について理解する。					
回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師		
1	2	呼吸器系の構造と機能の復習	講義	1		
2	2	気道・肺の炎症(肺炎・間質性肺炎)、気胸の病態と症状・診断・検査・治療、肺結核の病態と症状・診断・検査・治療	講義	1		
3	2	気道の閉塞をきたす疾患(気管支喘息・慢性閉塞性肺疾患の病態と症状・診断・検査・治療)	講義	1		
4	2	肺循環障害(肺梗塞・肺塞栓症)、呼吸不全の病態と症状・診断・検査・治療 酸塩基平衡の障害	講義	1		
5	2	肺腫瘍(癌・中皮腫)の病態と症状・診断・検査・治療	講義	1		
6	2	肺癌・気胸の病態と症状・診断・検査・治療(外科的治療)	講義	1		
		中間試験	試験	1		
7	2	循環器系の構造と機能の復習 虚血性心疾患の病態と症状・診断・検査・治療(内科的治療)	講義	2		
8	2	心筋症・心不全の病態と症状・診断・検査・治療	講義	2		
9	2	不整脈、心内膜炎と弁膜疾患の病態と症状・診断・検査・治療(内科的治療)	試験	2		
10	2	動脈硬化・閉塞性動脈硬化症・静脈瘤の病態と症状・診断・検査・治療(内科的治療)	講義	2		
11	2	高血圧症・大動脈瘤・大動脈解離の病態と症状・診断・検査・治療(内科的治療)	講義	2		
12	2	虚血性心疾患の病態と症状・診断・検査・治療(外科的治療)	講義	3		
13	2	心房中隔欠損症・大動脈瘤の病態と症状・診断・検査・治療(外科的治療)	講義	3		
14	2	心臓弁膜症の病態と症状・診断・検査・治療(外科的治療)	講義	3		
15	2	ショックの病態と症状・診断・検査・治療(外科的治療)	講義	3		
		終了試験	試験	2,3		
評価方法	中間・終了試験の成績(1・2・3の合計点=100点満点)で評価する					
評価基準	60点以上で合格 60点未満の場合は再試験(1回のみ) 配点率 1:40% 2・3:60%					
テキスト	1:①系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[2]呼吸器 医学書院 2:②系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[3]循環器 医学書院 3:①②+③系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院					
備考	授業に入る前に呼吸器系・循環器系の構造と機能について事前学習しておくこと					

分野	専門基礎分野		単位数	1	時間数	30
授業科目	人体の構造・機能障害と回復過程Ⅱ		学年時期	1年 後期		
担当講師 (実務経験)	1 非常勤講師(消化器内科医師)					
	2 非常勤講師(消化器外科医師)					
	3 非常勤講師(代謝内科医師)					
科目目標	<p>1. 栄養摂取・吸収・代謝・排泄の疾患について、病理学総論で学んだ知識を活用し、疾患・障害の発症の機序と各疾患の症状・診断・検査・治療について理解する</p> <p>2. 内分泌・代謝疾患について、病理学総論で学んだ知識を活用し、疾患・障害の発症の機序と各疾患の症状・診断・検査・治療について理解する</p>					
回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師		
1	2	消化器系の構造と機能の復習 肝炎・肝硬変の病態と症状・診断・検査・治療(内科的治療)	講義	1		
2	2	肝癌の病態と症状・診断・検査・治療(内科的治療)	講義	1		
3	2	イレウス・腹壁・腹膜・横隔膜疾患の病態と症状・診断・検査・治療(内科的治療)	講義	1		
4	2	胆嚢炎・胆管炎・胆石症・膵炎・胆嚢癌・胆管癌・膵癌の病態と症状・診断・検査・治療(内科的治療)	講義	1		
5	2	消化管の炎症と潰瘍(食道炎・胃炎・胃潰瘍・虫垂炎・クローン病・潰瘍性大腸炎)の病態と症状・診断・検査・治療	講義	1		
6	2	消化管腫瘍(食道癌・胃・大腸ポリープ・胃粘膜化腫瘍・胃癌・大腸癌・大腸ポリープ)の病態と症状・診断・検査・治療	講義	1		
7	2	消化管腫瘍(食道癌・胃癌・大腸癌・直腸癌)の病態と症状・診断・検査・治療(外科的治療)	講義	2		
8	2	イレウス・腹膜炎の病態と症状・診断・検査・治療(外科的治療)	講義	2		
9	2	胆管癌・胆嚢癌・膵癌・肝癌の病態と症状・診断・検査・治療(外科的治療)	講義	2		
10	2	化学療法の適応・抗がん剤の有害作用とその対策	講義	2		
		中間試験	試験	1.2		
11	2	内分泌・代謝期間の構造と機能の復習 甲状腺疾患の症状・診断・検査・治療	講義	3		
12	2	糖尿病の病態と症状・診断・検査・治療	講義	3		
13	2		講義	3		
14	2	副腎疾患の病態と症状・診断・検査・治療	講義	3		
15	2	下垂体疾患の病態と症状・診断・検査・治療	講義	3		
		終了試験	試験	3		
評価方法	中間・終了試験の成績(1・2・3の合計点=100点満点)で評価する					
評価基準	60点以上で合格 60点未満の場合は再試験(1回のみ) 配点率1・2：70%、3：30%					
テキスト	1,2：①系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[5]消化器 医学書院 3：②系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[6]内分泌・代謝 医学書院					
参考文献						
備考	授業に入る前に消化器系・内分泌・代謝系の構造と機能について事前学習しておくこと					

分野	専門基礎分野		単位数	1	時間数	30
授業科目	人体の構造・機能障害と回復過程Ⅲ		学年時期	1年 後期		
担当講師 (実務経験)	1 非常勤講師(脳神経内科医師)					
	2 非常勤講師(脳神経外科医師)					
	3 非常勤講師(整形外科医師)					
科目目標	1. 脳神経疾患について、病理学総論で学んだ知識を活用し、疾患・障害の発症の機序と各疾患の症状・診断・検査・治療について理解する。 2. 運動器疾患について、病理学総論で学んだ知識を活用し、疾患・障害の発症の機序と各疾患の症状・診断・検査・治療について理解する。					
回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師		
1	2	脳神経系の構造と機能の復習 脳神経障害とは	講義	1		
2	2	脳梗塞・一過性脳虚血発作の病態と症状・診断・検査・治療	講義	1		
3	2	脳神経系の感染症(脳炎・髄膜炎)の病態と症状・診断・検査・治療	講義	1		
4	2	筋・末梢神経障害(多発ニューロパチー・ギランバレー症候群)の病態と症状・診断・検査・治療	講義	1		
5	2	変性疾患(パーキンソン病・脊髄小脳変性症)、脱髄性疾患(多発性硬化症・認知症)の病態と症状・診断・検査・治療	講義	1		
6	2	頭蓋内圧亢進(脳浮腫・脳ヘルニア)の病態と症状・診断・検査・治療(外科的治療) 脳腫瘍の病態と症状・診断・検査・治療(外科的治療)	講義	2		
7	2	脳血管系の循環障害(脳出血・クモ膜下出血)の病態と症状・診断・検査・治療(外科的治療)	講義	2		
8	2	頭部外傷の分類・脳損傷を伴う頭部外傷(硬膜外・硬膜下血腫)の病態と症状・診断・検査・治療(外科的治療)	講義	2		
9	2	脳脊髄液の異常、水頭症の病態と症状・診断・検査・治療(外科的治療)	講義	2		
10	2		講義	2		
		中間試験	試験	1.2		
11	2	運動器の構造と機能の復習 運動器疾患の診断・検査と治療・処置	講義	3		
12	2	上肢の疾患(奇形・骨折 骨・関節の炎症など)	講義	3		
13	2	下肢の疾患(奇形・骨折 骨・関節の炎症など)	講義	3		
14	2	神経・筋疾患骨軟部腫瘍	講義	3		
15	2	脊椎疾患	講義	3		
		終了試験	試験	3		
評価方法	中間・終了試験の成績(1・2・3の合計点=100点満点)で評価する					
評価基準	上記各評価6割以上獲得で合格 60点未満の場合は再試験(1回のみ) 配点率 1・2:70%、3:30%					
テキスト	1:①系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[7]脳・神経 医学書院 2:①+②系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 3:③系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[10]運動器 医学書院					
参考文献						
備考	授業に入る前に脳・神経系・運動器系の構造と機能について事前学習しておくこと					

分野	専門基礎分野		単位数	1	時間数	30
授業科目	人体の構造・機能障害と回復過程Ⅳ		学年時期	2年 前期		
担当講師 (実務経験)	1 非常勤講師(泌尿器科医師)					
	2 非常勤講師(産婦人科医師)					
	3 非常勤講師(外科医師)					
	4 非常勤講師(がん化学療法認定看護師・外科病棟看護師)					
科目目標	1. 腎・泌尿器・女性生殖器疾患について、病理学総論で学んだ知識を活用し、疾患・障害の発症の機序と各疾患の症状・診断・検査・治療について理解する 2. がん化学療法について理解する					
回数	時間	授業内容			授業方法	担当講師
1	2	腎・泌尿器の構造と機能 症状とその病態生理 検査と治療処置			講義	1
2	2	腎盂腎炎,糸球体腎炎,ネフローゼ症候群の病態・症状・検査・治療			講義	1
3	2	腎不全の病態・症状・検査・治療 透析療法			講義	1
4	2	腎臓がん・膀胱がん・尿管がん・前立腺がんの病態・症状・検査・治療			講義	1
5	2	腎結石・尿路結石・水腎症・腎のう胞の病態・症状・検査・治療			講義	1
6	2	子宮の疾患(子宮筋腫・子宮がん)病理学的検査、内診・画像診断・治療			講義	2
7	2	卵巣の疾患(良性腫瘍・悪性腫瘍)検査(超音波・画像検査・腫瘍マーカー)			講義	2
8	2	不妊症(月経異常・子宮内膜症)性感染症 症状・検査・治療			講義	2
9	2	高齢女性に起こりやすい疾患(更年期障害・子宮下垂・膣炎)症 状・検査・治療			講義	2
10	2				講義	2
		中間試験			試験	1.2
11	2	乳房の疾患(乳がん) 疫学・診断・検査・治療			講義	3
12	2	乳房の疾患(乳がん) 疫学・診断・検査・治療			講義	3
13	2	乳がん患者の術後管理			講義	4
14	2	化学療法に伴う苦痛 抗がん剤の有害作用とその対策 抗がん剤投与時の観察・援助(ポート管理含む)			講義	4
15	2	化学療法時の看護(心身状態アセスメント・長期合併症のアセスメント・外来化学療法を受ける患者への援助)			講義	4
		終了試験			試験	3・4
評価方法	中間・終了試験の成績(1・2・3・4の合計点=100点満点)で評価する					
評価基準	60点以上で合格 60点未満の場合は再試験(1回のみ) 配点率 1・2:70%、3・4:30%					
テキスト	1:①系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[8]腎・泌尿器 医学書院 2:②系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[9]女性生殖器 医学書院 3:①+②+③系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院					
参考文献						
備考	授業に入る前に腎・泌尿器系・女性生殖器系の構造と機能について事前学習しておくこと					

分野	専門基礎分野		単位数	1	時間数	30
授業科目	人体の構造・機能障害と回復過程 V		学年時期	2年 前期		
担当講師 (実務経験)	1 非常勤講師(内科医師)					
	2 非常勤講師(眼科医師)					
	3 非常勤講師(耳鼻咽喉科医師)					
	4 非常勤講師(皮膚科医師)					
科目目標	1. 免疫・アレルギーについて、病理学総論で学んだ知識を活用し、疾患・障害の発症の機序と各疾患の症状・診断・検査・治療について理解する 2. 感覚器疾患について、病理学総論で学んだ知識を活用し、疾患・障害の発症の機序と各疾患の症状・診断・検査・治療について理解する					
回数	時間	授業内容			授業方法	担当講師
1	2	白血病の病態生理 症状・診断・検査・治療			講義	1
2	2	多発性骨髄腫・悪性リンパ腫の病態生理 症状・診断・検査・治療			講義	1
3	2	DIC・多臓器不全の病態生理 症状・診断・検査・治療			講義	1
4	2	膠原病・全身性エリテマトーデスの病態生理 症状・診断・検査・治療			講義	1
5	2	関節リウマチの病態生理 症状・診断・検査・治療			講義	1
6	2	後天性免疫不全症候群の病態生理 症状・診断・検査・治療			講義	1
		中間試験			試験	1
7	2	皮膚の構造と機能 症状とその病態生理			講義	2
8	2	接触性皮膚炎・蕁麻疹・熱傷 症状・診断・検査・治療			講義	2
9	2	白内障・緑内障 症状・診断・検査・治療			講義	3
10	2	網膜剥離 症状・診断・検査・治療			講義	3
11	2	糖尿病性眼科疾患 症状・診断・検査・治療			講義	3
12	2	耳疾患の症状と病態生理 検査と治療			講義	4
13	2	突発性難聴・めまい(メニエール) 症状・診断・検査・治療			講義	4
14	2	喉頭がん・咽頭がん 症状・診断・検査・治療			講義	4
15	2	終了試験			試験	2・3・4
評価方法	中間・終了試験の成績(1・2・3・4の合計点=100点満点)で評価する					
評価基準	60点以上で合格 60点未満の場合は再試験(1回のみ) 配点率 1:40% 2・3・4:60%					
テキスト	1:系統看護学講座 専門 成人看護学[4]血液・造血器 医学書院 系統看護学講座 専門 成人看護学[11]アレルギー 膠原病 感染症 医学書院 2:系統看護学講座 専門 成人看護学[12]皮膚 医学書院 3:系統看護学講座 専門 成人看護学[13]眼 医学書院 4:系統看護学講座 専門 成人看護学[14]耳鼻咽喉 医学書院					
参考文献						
備考	授業に入る前に免疫アレルギー系・皮膚・感覚器系の構造と機能について事前学習しておくこと					

分野	専門基礎分野		単位数	1	時間数	30
授業科目	人体の構造・機能障害と回復過程VI		学年時期	2年 前期		
担当講師 (実務経験)	専任教員					
科目目標	1. 疾病の成り立ちに関与する因子が理解できる。 2. 関与する因子を理解し、予防活動の理解につなげる。					
回数	時間	授業内容			授業方法	担当講師
1	2	疾病の成り立ちに関与する因子について 予防活動について			講義	専任教員
2	2	肺の悪性腫瘍① 病態の理解度テスト ワークシート			講義	専任教員
3	2	肺の悪性腫瘍②(病態関連図)			GW	専任教員
4	2	肺の悪性腫瘍③(チーム発表)			GW	専任教員
5	2	肝臓の炎症① 病態の理解度テスト ワークシート			講義	専任教員
6	2	肝臓の炎症②(病態関連図)			GW	専任教員
7	2	肝臓の炎症③(チーム発表)			GW	専任教員
8	2	心臓の循環障害① 病態の理解度テスト ワークシート			講義	専任教員
9	2	心臓の循環障害②(病態関連図)			GW	専任教員
10	2	心臓の循環障害③(チーム発表)			GW	専任教員
11	2	腎臓の炎症① 病態の理解度テスト ワークシート			講義	専任教員
12	2	腎臓の炎症②(病態関連図)			GW	専任教員
13	2	腎臓の炎症③(チーム発表)			GW	専任教員
14	2	まとめ			講義	専任教員
15	2	終了試験			試験	専任教員
評価方法	個人テスト(5点×4=20点)グループ課題(5点×4=20点)終了試験(60点満点)の合計点で成績評価する					
評価基準	60点以上で合格 60点未満の場合は再試験(1回のみ)					
テキスト	系統看護学講座 専門 成人看護学[2]呼吸器 医学書院 系統看護学講座 専門 成人看護学[3]循環器 医学書院 系統看護学講座 専門 成人看護学[5]消化器 医学書院 系統看護学講座 専門 成人看護学[8]腎・泌尿器 医学書院					
参考文献	菱沼典子著 看護につなげる形態機能学 メジカルフレンド社					
備考	疾病に関する事前学習を十分に行ったうえで講義に臨むこと					

分野	専門基礎分野	単位数	1	時間数	30
授業科目	からだのしくみと栄養	学年時期	2年次前期		
担当講師 (実務経験)	非常勤講師（管理栄養士）				
科目目標	人間にとっての栄養の意義を学び、食事療法の基本を理解する。				
回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師	
1	2	人間栄養学と看護・栄養状態の評価・判定	講義	管理栄養士	
2	2	栄養素の種類とはたらき	講義	管理栄養士	
3	2		講義	管理栄養士	
4	2	エネルギー代謝・栄養素の消化・吸収・体内代謝	講義	管理栄養士	
5	2	栄養ケア・マネジメント	講義	管理栄養士	
6	2	ライフステージと栄養	講義	管理栄養士	
7	2		講義	管理栄養士	
8	2	食生活と栄養食事療法・医療福祉の場における栄養食事療法・病院食の特徴と種類	講義	管理栄養士	
9	2	循環器疾患患者の栄養食事療法	講義	管理栄養士	
10	2		講義	管理栄養士	
11	2	消化器疾患患者の栄養食事療法	講義	管理栄養士	
12	2		講義	管理栄養士	
13	2	腎疾患患者の栄養食事療法、栄養代謝性疾患患者の栄養食事療法	講義	管理栄養士	
14	2	血液疾患患者の栄養食事療法、精神・神経疾患患者の食事療法	講義	管理栄養士	
15	2	術前・術後の栄養管理 終了試験含む	講義・試験	管理栄養士	
評価方法	筆記試験・出席状況・授業への参加態度・課題の提出で総合的に評価する				
評価基準	60点以上で合格 60点未満の場合は再試験(1回のみ)				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学 医学書院 系統看護学講座 別巻 栄養食事療法 医学書院				
参考文献					
備考	病院における患者の疾病の治癒と患者の食に対する満足度を高めるための栄養の重要性とチーム医療の中での栄養療法の必要性について正しく理解する。				

分野	専門基礎分野		単位数	1	時間数	30
授業科目	微生物学		学年時期	1年次前期		
担当講師 (実務経験)	非常勤講師（臨床実務経験有）					
科目目標	1. 微生物学を種類ごとの分類し、その特性を説明できる。 2. 感染防御に関わる免疫について基本的な内容を説明できる。 3. 代表的な消毒薬および滅菌法について説明できる。 4. 現代の感染症の特徴について説明できる。 5. 感染症の治療および予防について説明できる。 6. 各種病原体と疾患との関係を説明できる。					
回数	時間	授業内容			授業方法	担当講師
1	2	微生物のあゆみ、微生物の種類			講義	非常勤講師
2	2	細菌の培養環境と栄養、細菌の遺伝			講義	非常勤講師
3	2	真菌、原虫、ウイルスの性質			講義	非常勤講師
4	2	感染と感染症、細菌感染の機構			講義	非常勤講師
5	2	免疫、抗原と抗体、補体、アレルギー			講義	非常勤講師
6	2	滅菌と消毒			講義	非常勤講師
7	2	化学療法と化学療法剤			講義	非常勤講師
8	2	グラム陽性球菌、グラム陰性球菌			講義	非常勤講師
9	2	グラム陰性桿菌、らせん菌			講義	非常勤講師
10	2	グラム陽性桿菌、抗酸菌			講義	非常勤講師
11	2	嫌気性菌、スピロヘータ、リケッチア			講義	非常勤講師
12	2	クラミジア、真菌、原虫			講義	非常勤講師
13	2	DNAウイルス、RNAウイルス			講義	非常勤講師
14	2	RNAウイルス、肝炎ウイルス			講義	非常勤講師
15	2	まとめと終了試験			講義・試験	非常勤講師
評価方法	筆記試験・出席状況・授業への参加態度・課題の提出で総合的に評価する					
評価基準	60点以上で合格 60点未満の場合は再試験(1回のみ)					
テキスト	系統看護学講座 専門基礎 疾病の成り立ちと回復の促進〔4〕微生物学 医学書院					
参考文献						
備考						

分野	専門基礎分野		単位数	1	時間数	30
授業科目	臨床薬理学		学年時期	1年 後期		
担当講師 (実務経験)	非常勤講師(臨床薬剤師)					
科目目標	1. 薬物の薬理作用、作用機序、人体への影響を理解する。 2. 疾病の成り立ちと関連させながら、回復を促進するための薬剤効果のメカニズム及び有害作用を理解する。					
回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師		
1	2	序章 臨床薬理学と看護師、第1章 薬物治療の基礎	講義	薬剤師		
2	2	第2章 対症療法薬の臨床薬理学(解熱鎮痛薬、制吐薬)	講義	薬剤師		
3	2	第2章 対症療法薬の臨床薬理学(便秘治療薬、下痢治療薬、鎮咳・去痰薬、鎮静薬、睡眠薬)	講義	薬剤師		
4	2	第3章主要疾患の臨床薬理学(抗血小板・抗凝固療法、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患)	講義	薬剤師		
5	2	第3章主要疾患の臨床薬理学(慢性腎臓病、透析患者における薬剤管理、糖尿病)	講義	薬剤師		
6	2	第4章 特定の行為に関する臨床薬理学(栄養及び水分管理にかかわる薬剤の投与と調整、インスリンの投与量の調整)	講義	薬剤師		
7	2	第3章主要疾患の臨床薬理学(パーキンソン病、認知症、うつ病、うつ状態、てんかん)	講義	薬剤師		
8	2	第4章 特定の行為に関する臨床薬理学(精神および神経症状にかかわる薬剤の投与と調整)	講義	薬剤師		
9	2	第3章主要疾患の臨床薬理学(脂質異常症、骨粗鬆症、関節リウマチ)	講義	薬剤師		
10	2	第3章主要疾患の臨床薬理学(高血圧症、急性冠症候群、心不全、不整脈)	講義	薬剤師		
11	2	第4章特定の行為に関する臨床薬理学(循環動態にかかわる持続点滴注の薬剤の投与と調整)	講義	薬剤師		
12	2	第4章特定の行為に関する臨床薬理学(感染徴候がある者に対する薬物の臨時投与)	講義	薬剤師		
13	2	第3章主要疾患の臨床薬理学(胃・十二指腸潰瘍、胃食道逆流症、慢性肝炎)	講義	薬剤師		
14	2	第4章特定の行為に関する臨床薬理学(副腎皮質ステロイド薬による治療、術後ならびに呼吸管理にかかわる薬)	講義	薬剤師		
15	2	終了試験・試験の解説	試験	薬剤師		
評価方法	終了試験の成績(100点満点)で評価する					
評価基準	60点以上で合格 60点未満の場合は再試験(1回のみ)					
テキスト	系統別看護学講座 専門基礎 薬理学 医学書院 イラストで学ぶ薬理学 第3版 田中越郎 医学書院					
参考文献						
備考	疾病の成り立ちと関連させながら回復を促進するための薬剤効果のメカニズム及び有害作用を理解し、看護アセスメント及び援助につなげられるように具体的な症例を提示しながら進める					

分野	専門基礎分野		単位数	1	時間数	15
授業科目	治療論		学年時期	2年次 前期		
担当講師 (実務経験)	1.非常勤講師（麻酔科医師） 2.非常勤講師（放射線科医師）					
科目目標	各治療課程における生体の変化を学び、病気を持つ対象のアセスメントができる基礎的知識を理解する。					
回数	時間	授業内容			授業方法	担当講師
1	2	手術侵襲による生体反応			講義	1
2	2	全身麻酔			講義	1
3	2	硬膜外麻酔 腰椎麻酔			講義	1
4	2	術中の管理			講義	1
5	2	放射線療法の適応 放射線療法の種類 放射線療法における生体の変化			講義	2
6	2	放射線療法の有害事象とその対策 電離放射線の被曝			講義	2
7	2	放射線療法時の看護 心身状態のアセスメント 放射線照射時の観察と援助 有害事象に対する症状マネジメント 晩期合併症のアセスメントと援助 被曝防御			講義	2
8	1	終了試験			試験	1・2
評価方法	筆記試験・出席状況・授業への参加態度・課題の提出で総合的に評価する					
評価基準	60点以上で合格 60点未満の場合は再試験(1回のみ) 配点率 1：60%、2：40%					
テキスト	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院					
参考文献						
備考	各治療過程(手術療法・放射線療法)における生体の変化が理解できるように、実際使用されている記録・フィルム等を活用しながらすすめる					

分野	専門基礎分野		単位数	1	時間数	15
授業科目	生活とリハビリテーション		学年時期	2年次 前期		
担当講師 (実務経験)	非常勤講師（臨床実務経験有：理学療法士・作業療法士・言語療法士）					
科目目標	障がいをもつ対象に行われる治療過程について学び、生活への適応過程においてアセスメントができる基礎的知識を理解する。					
回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師		
1	2	【理学療法士】リハビリテーション概論	講義	理学療法士		
2	2	医学的リハビリテーション	講義	理学療法士		
3	2	機能障害への対応、評価とアプローチ、疾患別理学療法	講義	理学療法士		
4	2	動作介助のあり方と基礎的方法・関節可動域訓練	講義・演習	理学療法士		
5	2	【作業療法士】 ADLへの関わり(ICF、FIM、自助具、疾患別から見たADL機能)	講義・演習	作業療法士		
6	2	高次脳機能、認知機能への関わり～急性期から行う作業療法的評価およびアプローチ・高次脳機能障害とADL	講義	作業療法士		
7	2	【言語聴覚士】嚥下障害への対応とコミュニケーション障害 (失語症・構音障害)への関わり	講義	言語療法士		
8	1	終了試験	試験			
評価方法	筆記試験・出席状況・授業への参加態度・課題の提出で総合的に評価する					
評価基準	60点以上で合格 60点未満の場合は再試験(1回のみ)					
テキスト	系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院					
参考文献						
備考	機能障害と人間の生活行動を関連してアセスメントするための知識を講義し、演習で実際に体験してアセスメントできるように学ばせる。					